

八鹿病院ニュース

平成20年7月 発行／八鹿病院広報委員会 <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp/>

公立八鹿病院基本理念

『私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。』

看護部長就任あいさつ

古川綾子



本年4月より、米田前看護部長の退職に伴い看護部長という大任を拝命しました。と同時に、新しく副看護部長2名(西田副看護部長・西谷副看護部長)を迎え、新看護部体制がスタートを切りました。また新しく4名の新師長の昇任、採用者21名を迎え、総勢八鹿病院内では347名の看護・介護職員となり、現在各部署では、今年度の年間目標に向けて個人面接が始まっています。

2年毎に改訂される診療報酬の政策誘導の結果、在院日数の短縮・医療の高度化、また但馬地方における医師不足の中、当院も直接・間接的に大きな波をかぶっています。

昨年12月には、厚生労働省通知として、医師が医師しかできない業務に専念するように、また看護職がベッドサイドでのケアを充実させる為に、看護職をはじめとする関連職種との役割分担の検討が各医療機関に発せられ、現在検討に入っています。

看護部が目標とするところは、理念の中でもうたわれていますように、「質のよい温かみのある看護の提供」です。その為に職員は、各種研修会等に参加し自己研鑽に努めていますが、私達看護職を育てていただくのは、地域住民の皆様方のご協力がなければなしいないと考えています。どうぞ外来を受診された時・入院等で当院をご利用された時に、忌憚のない意見をいただきますようお願いいたします。

小児救急医療電話相談

ご存知ですか? #8000

#8000は兵庫県が設置する小児救急医療電話相談窓口です。

但馬地域は小児救急体制が充分とは言えません。こどもさんの急病、ケガなどで困った時には相談してみてもいかがでしょうか?

●相談時間

平日・土曜日：午後6時～午後10時
日曜日及び年末年始：午前9時～午後10時

看護師らが相談に応じてくれます。また、場合によっては医師が対応されます。

電話番号は#8000。
市外局番が06または072、ダイヤル回線、IP電話の方は078-731-8899 (ははきゅうきゅう) です。

あらかじめ、携帯電話に電話番号を登録しておきましょう!!



小児科休日診療のお知らせ

当院では月に一度、片山キッズクリニック(神戸市灘区)より医師を招き、小児科休日診療を行なっています。

救急患者さん以外でも受診できますので、診療日時を確認の上、ご来院下さい。

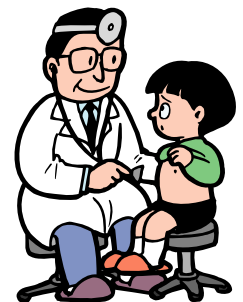
●受付時間 8:30～11:00、13:30～15:00

●診察日

7月27日(日)	8月24日(日)
9月28日(日)	10月26日(日)
11月23日(日)	12月28日(日)

●お問い合わせ

公立八鹿病院 小児科



新しく着任された先生のご紹介



谷 鎮礼先生
(内科)

地域の皆様に質の高い医療を提供できるように努力していきます。よろしくお願ひ致します。

周産期センターにおける院内助産制度の開設について

副院長(周産期センター長) 津 崎 恒 明

昨今の産科を志望する医師の減少もあって、八鹿病院では本年6月から産科医師が2名となっています。但馬全体の産科医師数を見ても8名と、このとりより少ない人数です。これに伴い、医師一人あたりの分娩数は約200件と増加の一途です。このままの事態が続けば医師の高齢化が進み、引退医師増加後の補充保証もないため、但馬の産科医療が破綻をきたすことが考えられます。

このため、当院では専門職能として比較的人材豊富な助産師が主体的に妊産婦のお世話をする「院内助産所」を開設するべく準備中ですので、その内容についてお知らせいたします。



周産期センタースタッフ

院内助産制度導入の背景 (表-1)

但馬の産科医療施設の分布として特徴的なのは、1次医療機関たる開業医が皆無で、豊岡病院、日高医療センターおよび八鹿病院の3施設のみであることです。但馬の年間分娩数は里帰り出産を含めて約1500件ですが、これらを上記3病院が50:25:25程度の比率で担当し、産科医師の比率は4:2:2です。

八鹿病院では、現在外来に2名、病棟に10名の助産師が勤務していますが、4病棟の「周産期センター」に集約して危険度の低い妊婦の分娩担当として起用し、助産師本来の職能を存分に発揮してもらうこととします。このことは結果的に産科医師の負担を軽減すると共に、妊婦に対しては従来にも増して安心感につながるものと考えています。

表-1 院内助産制度導入の背景

- 但馬の分娩担当施設は3つの公立病院のみ
- 但馬の年間分娩数は約1500件
- 但馬の産科医師数は8名……約200件/1名
- 但馬の産科医師の減少と高齢化
- 4病棟に周産期センター既設
- 助産師は比較的人材豊富……実働12名
- 分娩例は低リスクから高リスクまでさまざま
- 合同産科カンファレンスにてリスク評価実績 (小児科医師・産科医師・助産師・看護師)

周産期センター機構と業務分担 (図-1)

助産師の勤務場所は従来通り、外来と病棟部門に別れますが、外来では「助産師外来」を運営し、妊婦健診で超音波診断から胎児心拍数モニタリング評価まで行います。また毎月の「分娩検討会」資料を作成し、各種妊婦学級の運営も行います。病棟では分娩経過観察と助産業務を行うと共に、新たに褥婦の希望があれば、訪問指導を行います。

部門	外来部門 医師外来 助産師外来	病棟部門 医師助産コース 助産師助産コース
業務	<ul style="list-style-type: none"> ●助産コース選択支援 ●母親学級・安産教室運営 ●両親学級運営 ●産科カンファレンス資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> ●分娩経過観察と助産業務 ●産褥期支援(授乳指導等) ●分娩台帳入力業務 ●訪問指導業務 ●新生児ケア

医師：2名(平成20年6月1日から)
助産師：外来2名
病棟10名(師長、産休者、看学教務を除く)

図-1 周産期センター機構と業務分担

助産コースの選択と修正要因 (図-2)

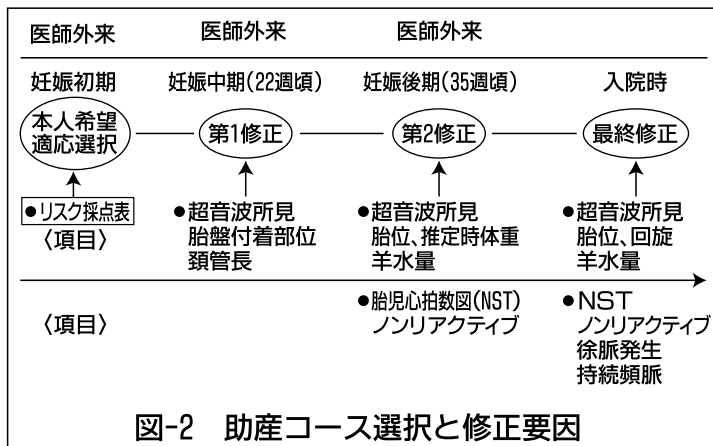


図-2 助産コース選択と修正要因

以上、院内助産制度について述べましたが、今後は受益者たる市民の皆様にもこうした考え方や機構についてご理解いただくことが重要であると思っています。また、但馬の分娩担当3施設がお互いに理解を深め、連携・協力することで、但馬の周産期医療を守っていきたく考えていますので、ご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いします。

助産コースの選択は妊娠初期に妊婦本人の希望によって行いますが、一定以上のリスクがあると判定された場合や、妊娠中に2回設定した医師による妊婦健診時にリスク評価の修正がなされた場合には医師助産コースへ変更していただく場合もあります。また、それまで低リスクと考えられていた例が分娩時にリスク発生に至る場合もあり得ますので、こうしたケースでは当日の産科当直医が対応することになります。

